



防災カフェ ☕

日本では、多くの被害を出した関東大震災を教訓として、その発生日の9月1日を「防災の日」、その前後を「防災週間」として様々な地震災害に対する啓発活動等が行われています。

地震は、「いつ、どこで起きるのか」を予測することは難しいことから、日頃からの地震対策が身を守るうえでとても重要になります。

地震の揺れで家具などが倒れて下敷きになったり、ドアがふさがれて逃げられなくなることも想定して、家具などには転倒防止の金具や支え棒などを取り付けたり、家具の上など高いところには重いものを載せないようにしましょう。また、家具の配置は、転倒しても下敷きにならず避難路を確保できる場所にするほか、飛散したガラスや食器の破片などによるケガを防ぐために運動靴やスリッパなどを、身近な場所に準備しておくことも大切です。

地震の揺れを感じた時には、①低い姿勢をとる。②身体（特に頭部）を守る。③揺れが収まるまで動かない（安全行動の1-2-3）などの行動をとり、まずは地震の揺れや落下物等から身を守る

地震から身を守るために

ことが重要です。

揺れが収まった後は、火災などの二次災害を防ぐため、ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めるほか、安易に火を使わないようにしましょう。

また、避難する場合は周辺の状況を確認し、遠回りでも安全な避難路を選択することも大切です。

芦別市での過去最大震度は4ですが、周辺の断層帯を震源とする地震が発生した場合には、最大で震度6程度の揺れが想定されています。地震はいつ発生するかわかりませんので、自分や家族の身を守るために、日頃から地震対策を行っておきましょう。



●詳細 危機対策係 ☎27-7058

住宅防火・防災キャンペーンのお知らせ ～敬老の日に「火の用心」の贈り物を～

近年の全国での住宅火災による死者数は900人前後の高い数で推移しています。

このうち約7割以上が65歳以上の高齢者であり、今後更なる高齢化に伴い、住宅火災における高齢者の死者数の増加が懸念されます。

これを踏まえ、総務省消防庁では、住宅火災から高齢者を守るため、敬老の日に改めて火災予防を注意喚起するとともに「住宅用火災警報器」や「住宅用火災警報器」または「防災品」等のプレゼントや、設置されている住宅用火災警報器の点検や交換を高齢者に代わり実施することなどを推進する「住宅防火・防災キャンペーン（9月1日～21日）」を展開しています。

大切な祖父母や両親が火災の被害に遭わないよう、敬老の日は身近な防災対策を考える日にしてはいかがでしょうか。

火災から身を守るためには、「早く知る」「早く消す」「火を拡大させない」ことが重要となります。火の不始末に注意するのはもちろん、住宅用火災警報器や住宅用消火器等を設置して、命を守りましょう。

また、住宅用火災警報器は古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。10年を目安に交換しましょう。

●詳細 芦別消防署保安係 ☎22-3106